

研究課題神経変性疾患の診断における皮膚生検の有用性の検討に関する情報公開

1. 研究の対象

2008年3月2日～2018年3月31日に当院神経内科で皮膚生検を受けられた方

2. 研究目的・方法・研究期間

神経変性疾患の診断に関しては、画像診断や、遺伝子解析技術の進歩に伴い、生前診断がより正確に出来る様な環境が整いつつ有りますが、死後の病理解剖によって、生前の診断が覆る場合がしばしば見られます。神経変性疾患の中には、神経組織のみではなく、皮膚を含めた全身の臓器に病理学的に変化が認められる疾患も報告されており、より正確な生前診断を行い、各疾患の原因究明、新たな治療法開発を進めていく事が必要不可欠です。この研究結果により、診断精度を少しでも上げることができれば、診断、研究において多大な貢献が出来ると考えられます。現時点で臨床診断が確定している方と健常対象者から、同意を得た上で、皮膚生検を行い、皮膚組織の提供を受けます。また、現在保有している剖検組織由来の皮膚標本を合わせて用います。パラフィン包埋切片を作製し、様々な染色法を用いて病理学的検討を行うとともに、線維芽細胞を分離培養し、様々なストレス環境での反応性の差を各疾患群、および対照群との間で比較検討する事により、皮膚生検の有用性に関して検討します。研究期間は2025年3月31日までを予定しています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：病歴、治療歴、画像所見、各種検査結果、副作用等の発生状況、カルテ番号、生年月日、イニシャル、病理検体番号、遺伝子解析結果 等

試料：血液、髄液、皮膚生検組織、皮膚線維芽細胞、剖検組織 等

4. 外部への試料・情報の提供

共同研究施設への試料、情報の提供については郵送で行います。遺伝子解析結果については電子媒体をハードディスクに記録した上で、パスワードロックをした上で郵送します。データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、本学の研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

共同研究機関

国立病院機構鈴鹿病院 脳神経内科 第二脳神経内科医長 曾根 淳
愛知医科大学 加齢医科学研究所 教授 吉田 眞理
横浜市立大学 神経内科学・脳卒中医学 教授 田中 章景
横浜市立大学 遺伝学 教授 松本 直通

既存試料・情報の提供のみを行う機関

国立病院機構 東名古屋病院 犬飼 晃 ほか 75 施設

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：名古屋市昭和区鶴舞町 65 電話：052 744-2391

名古屋大学大学院医学系研究科 附属医学教育研究支援センター 特任研究部門
特任助教 橋詰 淳

研究責任者：

名古屋大学大学院医学系研究科 総合医学専攻 脳神経病態制御学講座 神経内科学
教授 勝野 雅央

研究代表者：

国立病院機構 鈴鹿病院 脳神経内科 第二神経内科医長 曾根 淳